

NVC Monthly

同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第20号(20110114)

発行 竹田幸男



1月例会を開催

1月例会は、より大きな活動舞台に昇ることを目標に寝屋川市映像協会との新体制への移行に関する議論が大きな部分を占めました。これについては連絡員を選出して映像協会側との協議に当たることを決定しました。

(例会の窓参照)

例会の窓

平成23年1月例会

・日時：平成23年1月14日(金)

13:30～16:30

・場所：寝屋川市民活動センター 4階 こども室

・出席：天野 新井 石田 小笠原 田口 竹下 竹嶋 竹田 谷 田淵(10名)

・欠席：梶本(1名) / (50音順敬称略)

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

竹下さんの奥様(敏子様)が1月1日に突然お亡くなりになりました。

告別式には同好会会員をはじめ松愛会寝屋川支部からも多数ご参列をいたしました。ご葬儀を無事済ませられ竹下さんもお元気に本日の例会に出席されました。

会員一同、奥様のご冥福をお祈りするとともに竹下さんが引き続き皆と一緒に元気に楽しく同好会活動が出来ることを祈念しています。

梶本さんが今月からNPO法人高齢者大学でボランティア勤務されることになりました。例会開催日に勤務日が重なり、例会や行事に欠席することが多くなるとの申し出があり本日も勤務のため欠席されました。

後刻、例会对応を考えることにしました。

今年度の年会費（¥3,000）を集金。（田淵さん収納）

2. 報告・連絡・協議事項

寝屋川市映像協会との関係について

竹田さんから映像協会の近況と将来展望について資料配布の上、詳細の説明があり、同好会の今後の方向について協議しました。

主な意見は次の通り（順不同）

- ・新映像協会の一員として参加するには肩の荷が重い感じがする。
- ・作品作りが協会メンバーとして付いて行けるかどうか心配。
レベル差を感じてハードルが高い。
- ・まだまだ今の同好会で技術の勉強をしたいのが実情なので同好会以外の活動までは難しい。
- ・月1回の例会にも中々参加が出来ない事情があり、現状以上の行事への参加や活動のお手伝いなどは無理。
- ・入会すると共同例会などで色々と勉強になるようにも思う。
- ・ハイビジョンの新手法研修なども考えられる。
- ・新映像協会設立そのものには協力するスタンスでよいのではないか。
- ・従来通り別個に日常は活動していて、徐々に共同活動に向かって行く方法でどうか。
- ・新映像協会入会で多少負担金がアップ（例：年会費¥3,000に+¥1,000程度）するのは仕方がないかな。等々

以上から「新映像協会には参加する」との議決をして、その方向で活動をスタートすることになった。

会員個々の負担増にはならない方法や具体的な活動内容は、これから詰めて行くことになり、当同好会からの連絡担当として新井さん・小笠原さんのお二人が決まり、映像協会側との協議に入ることになった。

平野郷撮影会の件

- ・小笠原さんから「平野郷撮影会のご案内」（上辻さんとの共同作成）を元に詳細の説明を受け、当日の内容を決定。
- ・実施日：平成23年3月9日（水）雨天延期：3月11日（金）
3月7日（月）午前中に天気予報を見て実施の最終判断をする。
- ・撮影順序・送迎バス集合時刻・昼食メニューも決定。

- ・現時点で参加者は7名。(欠席は梶本さん、保留は3名)

N V C M o n t h l y 記事筆者

- ・次号(1月)は新井さん
- ・次々号(2月)は石田さんが担当(2月一杯に寄稿)

映像北大阪との三団体交流会

- ・次回(2月19日(土)14:00~守口市内開催)には3名(竹田・小笠原・竹嶋)が出席の予定。谷さん・石田さん・天野さんは保留。
- ・グループ作品「交野七夕まつり」を当会からの映写候補とする。

Windows Live ムービーメーカーについて

竹田さんから実際に使ってみた結果を報告。

- ・ハイビジョンも編集OKのソフトでVista(サービスパック2)または7(セブン)で使用可能。ダウンロードは無料。
- ・カットの分割・前後の入れ替え、始める・終るも自由自在に出来た。効果(トランジション)はマウスを当てると画面で実演もする。直感的に編集が出来る。
- ・保存はハイビジョンレベルからDVDレベル、さらに粗いのも選べる。ただしDVD作成に時間が掛かる。作品10分が40分くらい掛かる。
- ・タイトルは白文字だけ。(その後、他色もOKと判明)
- ・解説書(¥1,890)が販売されている。今後希望が多ければ講習会も考える。

3. 映写・合評

「輪島和太鼓 虎之助」: 4分52秒 小笠原さん

出た意見: 場面が変わっても太鼓の音のつながりがスムーズで自然。解説を入れて作品にして欲しい。

「スイス 雨のハイキングと高山植物」: 10分20秒 天野さん

出た意見: 写真として見ても綺麗。珍しい高山植物の花々の名前をよく調べられて感心。作品としてこのままで短縮しなくていいのではないか。

「映像同好会 カラオケ大熱唱」: 9分5秒 竹田さん

Windows Live ムービーメーカーで編集した作品

ハイビジョンなのでモニター・プレイヤーを持参して映写された。

出た意見: タイトルもちゃんと入って立派な作品に出来そう。

「ウィーン 街中からベートーベンの散歩道へ」: 5分 竹田さん

これもハイビジョンでのデモ映写。

4 . 会員の当面する問題点質疑応答

DELLのパソコンの新聞広告に「USB3」となっていたが？

- ・ USB3はもう出ていて、さらにスピードアップしている。
パソコンXPでDVDを再生しても音声が出ない。元々以前は出ていた。
これは後から入れたソフトウェアが競合していると考えられる。再インストールで直るか？

5 . 来月の開催日

- ・ 2月4日(金) 13:30～ 於：市民活動センター 4階 こども室
(注)：従来は第2金曜日を基本としていましたが、会員皆さんの都合がつくようになりまして、第1か第2金曜日かは臨機に対応することにしました。
- ・ 次回ビデオカメラ当番：小笠原さん



私 と 映 画

新 井 正 直

昭和二十年後半からは、映画が大衆娯楽化し、三本立て百円の映画館が繁盛した頃、私は高校生（昭和29～31年）で、学校が京都市内にあり、通学の足が、1時間に1本の国鉄奈良線であったことから、よく寄り道して、映画館に行きました。

当時の映画は、西部劇、ウォルト・ディズニーのアニメ、時代劇、アクションドラマなどで、時には1日に2ヶ所の映画館に行き、計6本を見て、ストーリーがまじり合い頭が混乱することもありました。

また、悪がきグループで、学校帰りに島原（当時は赤線地域）の映画館に行き、館内で酒を飲み、タバコを吸っていました。酒は、小学校5年生のとき友達の病気見舞いに行き、家族の人からなにを飲むかと聞かれ、焼酎と答えたのでコップ一杯に入れた焼酎を貰い、担任の先生の前で飲みました。たばこは、中学3年の時で、生徒会長をしているときに吸い始めました。

映画を見たあと、夕暮れになると学生服を着たままで、遊郭をヒヤカシて帰ることもありました。

社会人に成ってからは、貴重な休み（日曜日）の娯楽として、石原裕次郎らのアクション映画や時代劇などを見ていました。

初月給で、以前から欲しかったカメラ（オリンパスワイド）を買いました。このカメラの購入が、画像への興味を持つキッカケとなり、当時、手頃な価格

で買える白黒フィルムを、自分で現像、焼き付けを行い、時には、人物の顔を交換したり、猫の顔にして楽しんでいました。当時、カラーフィルムは高価で買えませんでした。が、映画用のフィルム（ASA25）を頂きましたが、感度が低かったために、天気の良い日にしか撮影出来なかった。

カラーフィルムの価格が下がり買えるようになってからは、現像・焼付けを写真屋に、お願いすることにしました。

それ以後、高級なカメラは買えませんが、4 - 5台は、買いました。

いつ頃か、記憶にありませんが8ミリカメラが低価格で発売されたので、購入して、子どもの成長記録を白黒フィルムで撮影して楽しんでました。

しばらくして、カラーフィルムが手頃な価格になり、私どもにも買えるようになると同時に、録画と録音の出来る撮影機・映写機が発売され、当時約40万円で購入しましたが、あまり使用しないうちに、手持ちビデオカメラが発売されたので、8ミリカメラからビデオカメラに移行しました。

最初に購入したビデオカメラは、ナショナル製で撮像管を使用し、VHSカセットテープをそのままセットして撮影できるものでした。プロ用カメラをひとまわり小さくしたサイズで、肩にになうタイプでした。次に購入したのは、VHSカセットテープをひとまわり小さくしたVHS-Cビデオカセットテープを使用し、CCD光学素子を使用したカメラで、ボディもコンパクトになり、孫たちの成長記録を撮り始めました。

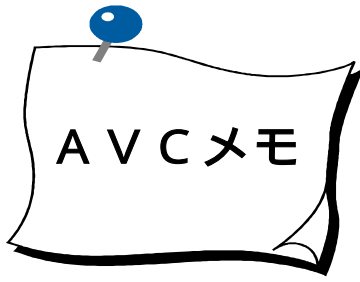
しばらくしてデジタル化され、カメラもテープとも小型化して、性能がアップしたビデオカメラ ナショナル製（NV-DR1）が発売され購入しました。このビデオカメラは、映像も鮮明になり使いやすくなりました。しかし、このビデオカメラには、ファインダーがなく、昼間の撮影で撮りづらいことがあり、ソニー製ビデオカメラ（DCR-PC5）とデジタル動画を編集できるソニー製パソコン（PCV-R61）を購入してビデオ編集をスタートしました。

その頃、松愛会、寝屋川支部の活動をビデオで記録する依頼があり、これに参加して完成し、その一年後、そのメンバーを中心に現在の寝屋川映像同好会が発足したので、参加させて頂きました。

その後、平成17年に買ったデジタルビデオカメラは、パナソニック製（NV-GS400K）で、AD変換機能が付いていたため、ケーブルテレビに加入して、ビデオ編集ソフトを使い、映画を録画し、別のパソコンとDVDレコーダーを使用して、私的に使用するDVDを日々作成しています。

現在までに作成したDVDは、約4千枚で、内容は、殆ど確認していません。

次回、執筆の順番が回って来るまでには、取り貯めた映画のDVDを観て、感じたことを書く予定です。



Windows Live ムービーメーカーのこと

竹田 幸男

近年、ビデオカメラは記録媒体としてテープからDVD、ハードディスク、さらにメモリーカードへと、また画質もSD（スタンダードデフィニッション＝標準画質）からHD（ハイデフィニッション…いわゆるハイビジョン）へと短期間に急速に移行してきました。今までのSD画質からHD画質への移行は、編集には強力なパソコンが必要で、当初は一般に売られているパソコンでは歯が立たない状態でしたが、CPU（中央演算装置）の進歩により、次第に編集にも使えるパソコンが手頃な価格で手に入るようになりました。また編集用ソフトウェアも今までのSD用では対応できず、HD用の開発が急がれ、その結果、いろいろなソフトウェアが発売されました。種類が増えるのはいいのですが、入門者としては、どれを取っていいのか迷うこともあり、また一応使いこなせるまでには、一人ではなかなかマスターできず、わからない点は誰かに教えるを請いたいところですが、身近に教えてくれる人がいないと壁に突き当たってしまうことが多いものです。

簡単で、使いやすく、また身近に教えてくれる人もいる、という編集ソフトが望まれます。

SD時代はウィンドウズXPに付属していたウィンドウズムービーメーカーがその役割を担っていました。また市販の物ではカノープス（現トムソン・カノープス）の「超編」が使いやすく、しかもかなりの機能を持ったいいソフトでした。しかしこれらのソフトはHD画質に対応していなかったため、世代交代が求められていました。その結果出てきたものの一つがウィンドウズ・ライブ・ムービーメーカーです。

このソフトはSDからHD画質に対応し、またいろいろな映像・画像形式に対応し、また出力もHD画質からSD画質、さらにはネット対応のため更に少ないデータ量で映像を伝送できるファイル形式にも対応し、インターネットへの映像アップロードも簡単にできるようになっています。

このウィンドウズ・ライブ・ムービーメーカー（以下省略してライブ・ムービーメーカー）は無償のソフトで、「Messenger」「フォトギャラリー」などが入った「Windows Live Essentials」の一つとして、一括で、または個別にダウンロードできます。

<http://explore.live.com/windows-live-essentials?os=other>

このライブ・ムービーメーカーはパソコンがウィンドウズ・ビスタのサービスパック2、およびウィンドウズ7でしか使うことが出来ません。XPでは使

えないとされています。

ライブ・ムービーメーカーをダウンロードして、インストールしたら、編集画面を開いてみます。左上にモニター画面、右側にタイムラインではなくストーリーボードが表示されます。ストーリーボードはカメラのスタートボタンを押してから、もう一度押して撮影を止めるまでの最初のコマの映像の縮小版が小さなアイコンになって表示されています。これをドラッグして順序を入れ替えたり、カットを分割したり、始めの方や終わりの方をカットしたりして編集を進めて行きます。ここでは編集の仕方を説明するのが本旨ではありませんので説明はこれくらいにしておきますが、ハイビジョンデータであっても簡単に手軽に編集ができるのが特徴です。そして編集が完了すれば「ムービーの保存」に移り、ハイビジョンレベルから標準画質レベル、さらにはネットへのアップロード用に、もっとデータ量の少ない映像データにも変換することができ、DVDの作成も可能です。画面転換のトランジションなどもたくさんのサンプルがあり、マウスのカーソルを持って行くと画面転換の動きを実演してくれます。

無料のソフトですから制限もあります。タイトル文字などは、複雑な装飾（たとえば影などを付ける）はありません。また音楽を簡単に付けることができ、現場音のレベルも変えられますが、高価な編集ソフトではできる複数種類の音（音楽とナレーションの両方）を入れることが出来ない、またカットの途中で音声のレベルを部分的に任意に上げたり下げたり、ということも出来ませんが、初歩の方の入門用としては十分な機能を持っていると思います。

高価な高度な編集ソフトは、いろいろなことができますが、そこに至る前に使い方が判らなくなると立ち往生することが多いものです。最初はライブ・ムービーメーカーのような簡単なものでスタートして、映像作りの楽しさを味わって頂いた後、改めてどの道を進むかを考え直して頂き、より高価な、進歩したソフトに切り替えて頂く、という進め方の方が途中で挫折することがないのではないかと。そして指導する立場の方もこのソフトに慣れて頂き、新人の背中を押して、まず編集の喜びを早く味わって頂くことが先決であろうかと考えます。